

令和6年9月定例会ティータイム

日時：令和6年10月22日(火)本会議終了後～

場所：議長応接室

1 議長発表

それでは、議題1、今定例会を振り返って、主な出来事を紹介します。

(1) 今定例会は、議長として2回目の定例会でした。本定例会においても、前定例会に引き続き42名の議員が代表・一般質問に登壇しました。議長として知事をはじめ各部局長に答弁を簡潔に行うよう伝え、限られた時間の中で、県政各般にわたる諸課題についてより活発な議論を行うことができたと考えております。また、本定例会会期中に衆議院が解散されたことに伴い、知事から衆議院議員総選挙の実施に要する経費として追加の補正予算議案が提出されましたので、10月15日の告示日までに迅速に議案を処理したところであります。

そのほか、本日の本会議において「地方消費者行政の安定的な推進及び拡充を求める意見書」及び「訪問介護等の基本報酬の引上げを求める意見書」を、それぞれ全会一致で可決しております。

(2) 質問期間中の10月5日に、伊東良孝沖縄及び北方対策担当大臣が来沖され、本県議会として要望書を手交しました。要望書の内容については、資料7ページから12ページになります。今後の沖縄振興策についてより一層の協力を求めたところです。

その他、土木環境委員会においては、名護市安和棧橋付近で起きた事故に関する映像の視聴をめぐり、委員間の協議が整わず、委員長の不信任動議が提出されました。

(3) 高校等出前講座について紹介します。

沖縄県議会高校等出前講座は、18歳投票権の導入を契機に、平成30年から開始しました。若者の政治への関心を喚起し、県政ひいては県議会へ積極的な参加を促すことを目的として、高校等へ県議会議員を派遣し、県議会の仕組みや県政の状況等を説明し意見を交換するものです。今年度は県内4つの高校で

の実施を予定しており、本定例会においては、那覇工業高校、那覇みらい支援学校高等部への議員派遣を決定いたしました。

2 質疑応答

(記者)

●土木環境委員会で安和の事故の映像に関して委員長の不信任動議などいろいろあったが、一連の委員長の対応、与党側の意見も含めて議長としてどういう風に見ていたか。

(議長)

●委員会は、基本的に委員長を中心に審議するところであって、それから逸脱したりすれば注意はするが、その議論の中で、安和の件は陳情、要請、請願なども出ていて、議員も一般質問、代表質問でもこれを取り上げている。県警は県警としての立場としての報告、土木部は土木部の立場としての報告、そういった意味では土木委員会できっちり調査しようということで現場視察もしたと思っている。

そういった意味では委員長は動議に対して、本来なら全会一致を目的にやるべきだと思うが、今回は動議が提出され、その結果見るべきだとなったことに対しては委員会審議のなかでは手続き上ありだと思っている。

(記者)

●委員長の進行としても当然のことだということか。

(議長)

●委員長権限、職権ではなく採決で決めている。ただ、それでもうまくいかない時は本会議で動議は過去に多々あったが委員会の動議というのは私もあまり経験はない。

(記者)

●9日の土木環境委員会で動画を見ることに一応、決を採っていると。その後、被害者の方の代理弁護士の方から申し入れがあり、これは委員長への付託ではなく議長宛てに来ているということか。

(政務調査課長)

●事実関係として、まず議会事務局に10日にFAXの送付があった。土木環境委員長宛てということだったので、土木環境委員長の指示で議会に対する文書は議長宛てにも出すべきであろうという指示を受けて先方に伝えたところ、翌11日に議長宛て、土木環境委員長宛て、両者宛てに対する文書が届けられたというところである。

(記者)

●常任委員の委員長に対してあのような動議がなされるというのもなかなか異例に思えるが、議長のお考えとしては。

(議長)

●様々な意見があったにしても、私は全会一致を基本としてこれまでやってきたから話し合いを持つべきだと思っている。それで各委員の野党議員の意見をいろいろ聞いていると、またいつ事故が起きてもおかしくないという状況の中で対策がなされていないという様々な意見が出て、土木環境委員会に陳情、請願が出されているのだから議会としての対応をすべきだという意見が出ていたので、私は緊急事態だなというのを感じた。

(記者)

●非公開だったとはいえ個人情報も含まれるので、例えば閲覧するときプライバシーの保護に最大限配慮するかたち、プライバシーの侵害にならないような加工を伴うなど、議会としてそういう対応をできたかどうかというのほどのようにお考えか。

(議長)

●事前に、公表しないことという守秘義務の説明があった。また議員各々、判断も違うと思うので、私はできれば土木委員会全員で見て、次の議会に活かせるような、土木委員会全員で安全対策をするような方向性を持っていけたらよかったかと思う。実際に事故が起きてから6月議会と9月議会と答弁も変わってきている。それに対する各議員のジレンマというか歯がゆさというか、人が亡くなっているのになぜ早く対応しないのかという質問が一般質問、代表質

問でも出ていたので、これを早めにするために土木委員会としても、急いで対応すべきだという気持ちである。

(記者)

- これは前例がないので禍根を残すものなのか。

(議長)

●ああいう不信任案動議というのは、例ができてしまっているのも委員会で私も逆に今後も起こりうると思う。

ただ、本会議においては、今まで遅い時間までかかりそうだったものも早い時間に終わっている。私が意識しているのは、答弁させるときに部長が手を挙げて5秒くらい間を置くこと。するとその間に知事が答弁をする。議員は知事が答弁すると、大体、与野党も自分の趣旨に合おうが合うまいが次の質問に移るのでキャッチボールができて、私はそういった面では今議会ははととてもよかったのではと思っている。

●6月議会ときは休憩時間が長く答弁できなかつたりしたので、もっと聞き取り調査をし、趣旨をちゃんと聞いて答弁の準備をするようにということを注意した結果、今回ははととてもよかったと思う。

- 出前講座についても回数を増やして欲しいなどいろいろ要望があった。